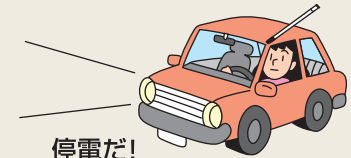




日頃から家族全員で、避難場所や避難場所までの道順を決めておきましょう。
災害が起きた時、家族全員が一緒にいるとは限りません。
そんな時でも、あらかじめ避難場所を決めておけば安心です



停電だ!
車のライトやラジオもけっこう役に立ちます。

地震災害

家で地震が発生したとき



命あってのものだね!
まず身の安全を確保することが大切です。



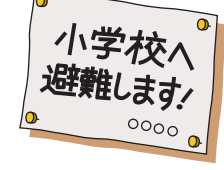
何よりも火の始末。
火災発生による二次災害が
惨事を招きます。



持ち出し品はOK?
情報を知ることが大切です。



お隣さんはいじょうぶかな?



留守家族にはメモを残そう!

外出中に地震が発生したとき

車を運転中
車を運転中のときは、路肩によせて、カギをつけたまま避難しましょう。

海辺にいたら
津波の可能性があります。川のそばを避け、海岸からはなれましょう。

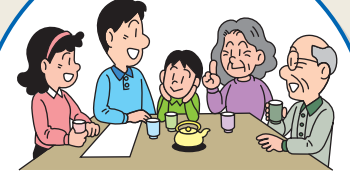
路上で
路上では、頭をカバンなどで保護して、建物等の倒壊の恐れがない広い場所へ逃げましょう。



防災行政無線を聞く
土砂災害の危険性のある場所を避け、行政無線のスピーカーに耳をかたむけましょう。



日頃のコミュニティー活動が、お互いを支え合う大きな力になります。



事前に家族と話し合っていれば、あわてることはありません。再会はもうすぐです。



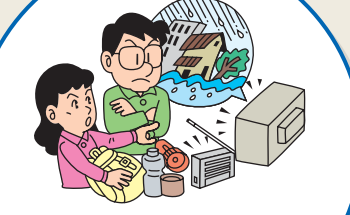
お年寄り、子供と一緒に避難してください。

ひとりで避難している人には声をかけよう!

崩げや川のそばは危ないぞ!

風水害

台風が近づいたり集中豪雨の恐れがあるとき



情報が命綱、テレビ、ラジオで情報収集をしましょう。

こんなときは赤信号

崖くずれ

- 山の斜面の途中から水が噴き出したとき。
- 斜面からバラバラと小石などが落ちてきたとき。
- 石垣や擁壁が盛り上がり、亀裂が入ったとき。

地すべり

- 地面に割れ目ができるとき。
- 池や井戸の水が急に減ったり、濁ったりしたとき。

土石流

- 立木の裂ける音や巨礫の流れる音が聞こえるとき。
- 渓流の流れが急に濁ったり、流木が混ざったりしたとき。
- 雨が続けているのに渓流の水位が急激に減少し始めたとき。

洪水時の避難は

水位の確認

歩ける深さは股下までです。無理をせず、高所で救助を待つのが安全です。

足元に注意をはらう

素足、長ぐつは禁物です。ひもでしめられる運動靴をはき、棒を杖がわりにして安全確認しましょう。

子供、お年寄りからは目を離さない

はぐれないよう、お互いの身体をロープで結んで避難しましょう。

GOAL

避難所では
●助け合うやさしい心が大切です。
●係の人の指示に従おう!

